

第2表 ジベレリン濃度がほう芽と収量に及ぼす影響

第1回実験（1月掘り取り）

試験区	根株重 g	葉数 本	収量		
			葉柄数A 本	葉柄重B g	平均B/A g
250	364 a	7.5 a	7.3 a	250 a	34.2
125	385 a	8.5 a	7.5 a	216 a b	28.8
62	344 a	6.6 a	6.8 a	243 a	35.7
対 照	362 a	8.1 a	5.5 b	177 b	32.2

第2回実験（12月掘り取り）

250	1324 a	6.9 a	20.6 a	861 a	41.8
125	1279 a	8.0 a	25.0 a	829 a	33.2
62	1246 a	6.1 a	17.0 a	722 a	42.5
対 照	1190 a	1.5 b	4.6 b	145 b	31.5

- 注) 1. 調査個体数20とし、1株当たりの平均で示した。
 2. 葉数は第1回目収穫時における数。ここでの葉数は葉柄が伸長し始めた数を示す。
 3. 平均B/Aは1葉柄当たりの重さ。
 4. アルファベットの異符号間にはDuncanの多重検定法により、5%水準の有意差があることを示す。

第3表 ジベレリン濃度別の根株重と葉柄数及び葉柄重との相関

第1回実験（1月掘り取り）

試験区	葉柄数	葉柄重
250ppm	0.731**	0.948**
125	0.721**	0.969**
62	0.778**	0.951**
対 照	0.533*	0.843**

第2回実験（12月掘り取り）

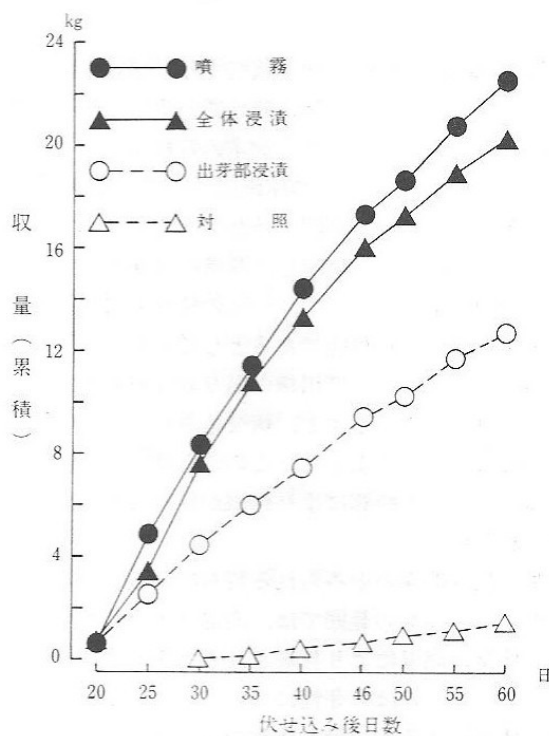
250ppm	0.783**	0.835**
125	0.676**	0.935**
62	0.511*	0.830**
対 照	0.295	0.426

注) ** 1%水準有意, * 5%水準有意

3. ジベレリン施用法

ほう芽は、全区とも伏せ込み後7日に始まったが、ほう芽揃いは噴霧区、全体浸漬区で優れ、出芽部浸漬区はやや劣り、対照区では劣った。また、対照区には最後までほう芽しない個体が50%存在した。

第4表に、1株当たりの根株重、ほう芽数及び収量を示した。収量についてみると、噴霧区と全体浸漬区との間に有意差は認められなかった。また、噴霧区と全体浸漬区では、供試した根株重と葉柄数及び根株重と葉柄重との間には高い相関関係があり、相関係数は噴霧区ではそれぞれ0.838**、0.877**、全体浸漬区ではそれぞれ



第4図 ジベレリン施用法が収量に及ぼす影響

注) 収量は10株当たりの累積葉柄重を示す。